

音楽科授業案

日時 平成26年11月12日(水) 5校時

生徒 2年A組 男子13名 女子21名 計34名

授業場 音楽室

授業者 齊藤貴文

1 題材名 「対話のある音楽～ブルース・スケールを使った旋律創作～」

[共通事項] ア リズム 旋律 構成 イ 拍 拍子 音階

2 題材について

(1) 題材観

今日、インターネットをはじめとする情報技術、科学技術の発展に伴い、余計なモノ・コトはできるだけ省略できるようになり、私たちの生活は利便性の高いものとなった。しかし、私たちは同時に、余計なモノ・コトが本来は自分でやるべきことである意識まで失いつつあるのではないだろうか。科学技術の進展によって省かれつつあるモノ・コトの中には、実は私たちが主体的に判断し行動するために必要な要素が含まれているような気がする。

第2期教育振興基本計画答申(H25年6月)では、これまで以上に「生きる力」の確実な育成が求められており、新たな社会モデルとして、知識を基盤とした自立・協働・創造をあげ、モデルとしての生涯学習社会の実現を目指している。このことは、「生きる力」のより一層の推進とともに、これまで以上に主体的な思考・判断が大切なこと、そしてコミュニケーションの重要性を物語っている。

音楽活動は本来、自分の内面にわき上がる美意識とのやりとりが不可欠な教科であり、どこまでも主体的な姿勢が必要である。なかでも創作分野は、音や音楽に自ら働きかけなければ成立しない分野であり、多様な音素材や音選びには、自らの思考・判断を伴って、価値を見いだすことが必要になる。自らの学習経験から、試行錯誤し、音を選び(判断し)、旋律を紡いでいく行為は、けっして楽(らく)ではないが、できたときの達成感や充実感は合唱や器楽演奏に勝るとも劣らない経験ができ、音楽活動のよさがそこにはある。

本題材では、ブルース・スケールの特徴を生かして旋律を創作する活動を設定する。ブルース(Blues)は米国南部で19世紀後半に発生した音楽のひとつで、20世紀以降のポピュラー(ジャズやロック)音楽に幅広く影響を与えた音楽として知られている。特徴的なリズムとアドリブの効いた旋律は、人々の興味を喚起することから、TVをはじめ様々な場所で広く利用されており、中学生においても身近な音楽の一つである。

本実践においては、生徒がブルース・スケールの理解を通して、主体的にブルースのリズムに合った(乗った)旋律を創作していく。また、単元後半にはコール&レスポンスの楽式を取り入れ、音楽が対話によって成り立つブルースのよさを実感させていく。自らが主体的に創った旋律が、他者との協働を通して、より発展的に広がっていくことを体感するとともに、音楽のよさや魅力を実感させていきたい。

マーセルも「音楽は楽しいものです。しかし、やさしいものではありません。」¹⁾ というように、今やICT等で簡易に演奏できたり、あるいは心地よい音楽がいつでも聴ける現状にある生徒たちに、音楽のよさを実感するためにはけっして楽しいだけではないということも気づいて欲しいと考える。

(2) 生徒観 省略

(3) 指導観

以上より、生徒一人ひとりが主体的により深く音楽を味わうことを意図して、「対話のある音楽」という題材を設定した。

創作の学習においては、場面を選択して、その場面にあった音楽を作成したり、自らの好きなお菓子にあった音楽を作ったりなど、これまで自分の世界に閉じることが多かった。

しかし、今回はブルース・スケールを活用し、コール&レスポンスという楽式を通すことで、他者との協働において、他者を（注意深く）聴き、自己の演奏に反映させ、且つ発展させることが必要である。そのことがこれまで以上に主体的に音や音楽に関わることにつながり、さらに、自他ともに注意深く聴き合う活動が中心となることから、自尊感情を高めることにもつながっていくと考えられる。

手だてとしてはブルース・スケールのなかでもマイナースケールにしぼることや、本時においてはコール&レスポンスを通して、主体的に音楽を表現したり、聴いたりする場を設定することとなる。

手だてを通して、一人ひとりがこれまで以上に創作の楽しさを体感するとともに、音楽の楽しさを深く味わうことを意図している。

ブルースやジャズの音楽は、一度は聞いたことがある生徒が多いが、無意識的に耳にする場合が多く、実体験となると稀である。そのような生徒たちにブルースの音楽を通して音楽のよさを実感させていきたい。

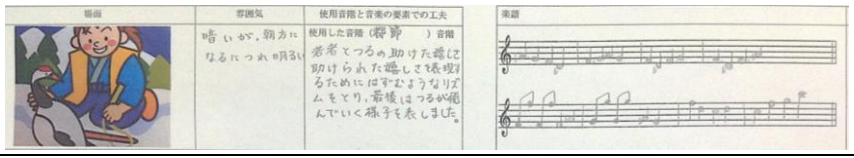
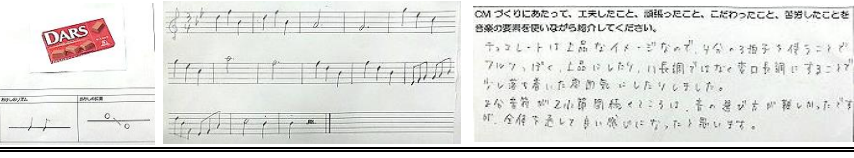

3 題材の目標

ブルースの音楽や音階の特徴を理解し、即興的に旋律をつくる活動に関心を持ち、反復・変化・対象などの構成を工夫しながら音楽をつくる活動に積極的に取り組み、対話のある音楽を表現することができる。

4 評価規準

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<p>ア ブルースの音階やブルース特有の音楽の特徴に関心をもち、それらを生かし音楽表現を工夫して即興的に旋律を作る学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>イ コール&レスポンスによる音楽の構成や全体のまとまりに関心をもち、それらを生かし音楽表現を工夫しながら即興的に音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>ア 音楽を形づくっている要素（リズム・構成）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽や音階の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもつことができる。</p> <p>イ 音楽を形づくっている要素（リズム・構成）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽で表現したいイメージをもち、構成や全体のまとまりを工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつことができる。</p>	<p>ア 音楽や音階の特徴を生かした、音楽表現をするために必要な技能を身に付けて即興的に旋律をつくることができる。</p> <p>イ 音楽の構成や全体のまとまりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて即興的に音楽をつくることができる。</p>

5 題材指導計画

	学習事項	主な学習活動・手立て	評価				
			関	創	技		
関連	<p>1年：「昔話にBGMを」</p> <p>概要：昔話の各場面に日本の音階（律・民謡・都節・沖縄）を用いた旋律創作。</p>		教科語彙の可視化・協働的な場の設定B	ア	ア		
	<p>2年：「おかしなCM」</p> <p>概要：自分が好きなおかしな言葉の抑揚・言葉のリズムを元にした旋律創作。</p>						
対話のある音楽～ブルース・スケールを使った旋律創作～							
1	<p>「ブルースについて」</p> <p>○楽曲をとおして、創作の見通しを持つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ポピュラー音楽について学び、聴き比べる。 ●楽曲を聴き、ブルースの音階やリズムから音楽の特徴を考える。 	教科語彙の可視化・協働的な場の設定B	ア	ア		
2	<p>「ブルースのリズムにのって音楽しよう」</p> <p>○ブルースの特徴を生かした旋律を創作する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ブルースの音階やリズムを生かした旋律をつくる。 ●グループで伴奏に合わせて旋律を演奏し合う。 ●お互いにつくった旋律について交流する。 				ア	ア
3 (本時)	<p>「コール&レスポンス」</p> <p>○コール&レスポンスの特徴を生かしたアドリブ演奏を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●コール&レスポンスについて学ぶ。 ●コール&レスポンスの特徴を生かしてアドリブ演奏を行う。 					
手だて：聴くポイントを絞り、注意深く聴く活動の設定A							
関連	<p>3年：「3年間の思い出を音楽でつづろう」</p> <p>概要：思い出を4場面設定し、A-A'-B-A"(orC)の構成でコード進行を元にした旋律創作。</p>						


6 本時案

(1) 本時の目標

コール&レスポンスを理解し、リズムや構成を工夫しながら即興的に対話のある音楽をつくることができる。

(2) 本時の展開

本時の展開 (○…発問, △…補助発問, □…指示, 説明)

主な学習活動 (下位目標)	教師の働きかけ・手立て	【評価方法】・備考
<p>1. ブルースの特徴を生かした旋律創作を発表することができる。</p>	<p>□ブルースの特徴を生かした旋律を発表しよう。</p> 	
<p>コール&レスポンスの特徴を生かしてお互いの旋律を聴きあい、アドリブ演奏で対話しよう！</p>		
<p>2. 映像を通して、コール&レスポンスの概要を理解することができる。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <レスポンスの注目する視点> ・リズム ・相手のリズム ・最後の小節をよく聞くこと ・相手のリズムを真似ること </p>	<p>○コールは呼びかけですが、レスポンスはどういう意味でしょう。</p> <p>□映像を通してコール&レスポンスの構成を理解しよう。</p> <p>○レスポンスを考える場合、どんなことに注目すればいいのでしょうか。A</p> <p>△旋律のどこに注目して聴いたらいいのでしょうか。</p> <p>△では、コールは何を気にすればいいかな。</p>	<p>・レスポンス 応答・反応・対応・返事</p> <p>・コール&レスポンス：「呼びかけと応答」の意。</p>
<p>3. 班でコール&レスポンスの練習をすることができる。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <レスポンスを意識したコール> ・リズムをはっきりさせる ・最後まで演奏すること </p>	<p>□コール&レスポンスの特徴を生かし、班で練習をしましょう。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ・一人4小節を担当して、順番にコール&レスポンスを体験する。 ・それぞれの4小節目の動きに注目して、そのリズムを真似る ・できるだけマイナーブルースの音階を利用する ・音の数よりも、リズムに注目させる。 ・伴奏のリズムにも注目させる。 ・適宜模範演奏及びコール&レスポンスを実演する </p>	
<p>4. 全体でコール&レスポンスの発表をすることができる。</p> <p>5. 単元全体のまとめをWSに記入することができる。</p>	<p>○レスポンスを意識したコールをするためにはどんなことに気をつけたらいいだろう。</p> <p>□全員でコール&レスポンスをやってみましょう。</p> <p>□単元全体のまとめをWSに記入しましょう。</p>	